

ちのみつき 知野 光希さん

燕市出身で、車いすバスケットボールの U23 日本代表として9月の世界選手権の優勝に貢献した知野さん。自身の障がいと障がいに対する世間の反応についてお話を聞かせてくれました。



※知野さんの活躍については、広報つばめ 2022 年 11月号「シリーズひと」内で紹介しています。

「気軽に接してくれる気持ちが嬉しい」

私は、おうだんせいせきずいえん「横断性脊髄炎」という病気です。

記憶はあまりないのですが、4歳の頃にいきなり両足に痛みが走り、その次の日には足が動かなくなっていました。この病気の原因は分かっておらず、治療法も確立されていないようです。周りの人には過剰に心配されることがよくあって、病気のことあまり触れたがらない人がほとんどです。

私としては、「どういう病気なの？」と気軽に聞いてくれて大丈夫。そのくらいフランクに接してくれた方が、距離が縮まって良いんです。

何より、私の「障がい」について知ろうと思って接してくれる気持ちがとても嬉しいです。

特集

手を取り合って



障がいへの理解を深め、適切な配慮をしましょう

「障がい」には多くの種類があります。主な特性や配慮が必要な人への心配りについて紹介します。

※下記のほか、発達障がい、言語障がい、難病など心身の機能の障がいのある人も含まれます。

視覚障がい

全く見えない、見える範囲が狭いなど人によって見え方がさまざま。

～手助け・心配り～

点字ブロックの上で立ち止まったり、障害物を置かない。

内部障がい

心臓、呼吸器じんぞう ぼうこう、腎臓、膀胱、直腸、小腸、肝臓、HIVによる免疫機能障がい、環境の影響を受けることも。

～手助け・心配り～

携帯電話やタバコの煙など公共の場でのルールを守る。

聴覚障がい

全く聞こえない、雑音が混じるなど人によって聞こえ方がさまざま。

～手助け・心配り～

筆談、手話、口話など会話かんげつの方法を確認する。短文で簡潔な情報で伝える。

精神障がい

統合失調症やうつ病などさまざまな疾患により、生活のしづらさを抱えている。

～手助け・心配り～

不安を感じさせないよう、笑顔で穏やかに対応する。

したい 肢体不自由

手や腕、足や脚、体幹に障がいがあり、体を思うように動かせないなど。

～手助け・心配り～

車いすを使用している人の移動やドアの開閉などを手伝う。

知的障がい

発達期に知的機能の障がいが見られ、社会生活への適応がしにくいと感じる。

～手助け・心配り～

ゆっくり、丁寧に話し、絵や写真などでわかりやすく説明する。

私たちは1人きりでは生きていけません。

みんな誰かに支えられて生きています。

毎年12月3日～9日は障がい者週間です。

1人ひとりが障がいへの理解を深め、

すべての人が助け合い、支え合いながら暮らせる「燕」にしていきたいと思います。



スポーツ

車いすダンスに挑戦している藤原さん姉妹を紹介します。

【日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部】所属

ふじわら ゆい な
藤原 結衣菜さん(写真右)
あやね
彩音さん(写真左)

その後、すぐに結衣菜さんを誘い練習がスタート。車いすダンスは、2人の息を合わせるスポーツです。お互いに相手の様子やテンポを確認し、手を取り合いながら演技を行います。「一緒に踊ると、やる気が湧いてくるし、ダンスも負けないように頑張ろうと思えます」と結衣菜さん。彩音さんは「色々チャレンジして、リードしてくれるところが嬉しいです」と話します。姉妹で支え合いながら車いすダンスを楽しんでいます。

姉妹で手を取り合って

姉妹で車いすダンスのペアを組む、姉の結衣菜さんと妹の彩音さん。車いすダンスを始めたきっかけは、彩音さんが体験会に参加したことでした。「初めて乗ってみたダンス用の車いすは、とても軽くて自由に動ける感覚に感動しました」

貴重な交流の場

練習会で参加者をサポートしているのは、2人のご両親です。姉妹が揃って始めた車いすダンスの様子を温かく見守っています。「始める前までは、些細なことでもなんかも多かった2人ですが、今では『ペア』として、助け合いながら練習を頑張っています」

これまでスポーツの経験がなかった彩音さんや、学校外で交流の場が少なかった結衣菜さんにとって貴重な時間になっているといいます。「本人たちはもちろん、私たち両親も車いすダンスというスポーツを通して、初めて会う人、初めて覚えることに困まれた、刺激の多い環境に身を置くことができました。障がいの有無に関わらず、自由に自分を表現できる場で皆さんの経験をしてほしいと願っています」



社交ダンス講師
たちかわ 孝さん(写真右)
まい 舞さん(写真左)

「日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部」の練習会に毎年呼んでもらい、社交ダンスの視点からアドバイスをしています。車いすダンスの魅力は、「障がいのある人と健常者が一緒に踊る」ことだと思います。年齢、性別、障がいを問わず誰もが輝くことのできる素晴らしいスポーツだと感じています。

PICK UP

車いすバスケットボールを体験 / 小・中学生が共生社会について考えました



パラスポーツの体験を通じ「共生社会」を考える「あすチャレ！スクール」（日本財団パラスポーツセンターの主催事業）が市内小中学校で開催されました。講師の根木慎志さんのお話から、多様性を認め合う大切さ、挑戦する勇気を学びました。



人手不足のピンチを救う！

工場の中で黙々とレンゲのバリ取り作業をこなすのは、アビリティ燕の永井さん。企業からの業務依頼を受け、慣れた手つきで作業に励みます。「もう何回も来ていますが、いつも会社の人は優しく、自分もこの作業が得意なので仕事にやる気があつきます。障がい者就労施設では、施設内での作業がほとんどです。その中で、企業の依頼を受け、施設の外で仕事をこなすことは、本人の自信や家族の喜びにもつながっていると思います。」

「電車が好きなので、もらったお給料で電車に乗りたくて、仕事も趣味も充実している永井さんです。」

困ったときに大助かり！

株式会社エンテックで代表取締役を務める関藤さんは、繁忙期の人手不足に頭を悩ませていました。

「作業自体は簡単なものですが、忙しい時には、2週間ほど朝から晩まで従業員が張り付きで作業をする工程があり、なかなか生産効率が上がりませんでした」

そこで依頼したのが、障がいのある人の短時間就労。それまで従業員の時間が取られていた作業を任せることができ、生産量の安定化につながったこと。

「燕市の会社は、繁忙期に業務が回らなくなる企業も少なくないと思います。業務の内容にもよりますが、お互いに支え合いながら一緒に協力していければ企業にとって非常に大きな力になると思います」

就労

施設外就労の様子や感想を紹介します。

【アビリティ燕】
ながい ゆうや
永井 佑弥さん(写真右)

【株式会社エンテック】
せきふじ ひろき
関藤 紘希さん(写真左)

障がい者就労施設では、企業の皆さんからのお仕事を募集しています。

- こんなことができます
製品の箱詰めやタグ付け、シール貼り、検品、清掃業務、草取りなど、その他の軽作業や企業に向いて作業することも可能です。
- 作業の料金
作業料金は作業内容によって異なります（見積り無料）。
- 安心してご活用ください
・お仕事は、障がい者就労施設の職員が付き添ってサポートします。
・短時間や少量の仕事の発注も可能です。

■問合せ 社会福祉課 障がい福祉係 ☎ 0256・77・8172



▲真剣な眼差しで作業を行う永井さん

燕の支え合い

市内で互いに支え合う人たちを紹介します。

つばめ 2022 バリアフリーフェス

今年の「障がい者週間」と合わせて、障がいや障がいのあ
る人への関心・理解を深めるため、12月8日(木)からイベ
ントを開催します。



①障がい者就労施設などの活動・商品紹介

日時 12月8日(木)～10日(土) 午前10時～午後3時30分
会場 市役所1階 つばめホール
内容 市内12施設の個性豊かな商品が並びます！

みんな表情が違う
ので、お気に入り
を見つけに来てく
ださい！



つばめキャンドル



手作りジャム

気持ちを込めて
作った手作りジャ
ムです。ぜひ味わっ
てください！

■問合せ 社会福祉課 障がい福祉係 ☎ 0256-77-8172

②こころのバリアフリー講演会

日時 12月10日(土) 午後1時30分～3時
場所 市役所1階 会議室101～103
定員 50人(要事前申込)

無料

手話通訳
要約筆記
あり



■演題 『全盲の僕が弁護士になった理由』

講師 大胡田 誠さん

〈講師プロフィール〉

1977年静岡生まれ。12歳で視力を失うも弁護士を志し、8年の苦学を経て司法試験に合格。町弁(町医者の弁護士)として、さまざまな問題を抱える依頼者を支えている。2012年に出版した著書「全盲の僕が弁護士になった理由」(日経BP社)がメディアに取り上げられ、2014年ドラマ化。2019年 おおごだ法律事務所を開設。プライベートでは2児の父。

■問合せ・申込み 燕市障がい者地域生活支援センターはばたき ☎ 0256-66-5688

心のバリアフリーで 助け合い暮らせる燕に

燕の障がい者理解の現状は？
以前は、障がい者施設や障がいのあ
る人と地域との接点が少なく、お互い
に手を取り合いたくない反面、接し方や交
わり方に苦労しているような状況で
した。
しかし、ここ数年は市内企業からの
作業依頼の増加や地域の皆さんとの
交流の活発化により、障がいのある人
にとっても暮らしやすい社会に近づ
いていると感じています。

誰もが支え合い、助け合える社会の
実現のため、地域と障がいのある人
や障がい者施設をつなぐ活動をしてい
る小平さんにお話を伺いました。



燕市障がい者自立支援協議会
会長 小平 松雄 さん

誰かが暮らしやすい燕のために
これまでの、主に障がいのある人や
その家族に大きな負担がかかってい
ました。今後は、障がいのある人の生
活を地域全体で支えることで、本人や
家族がより安心して暮らせる燕の実
現を目指していきたいと考えていま
す。障がいのある人が置かれている環
境や制度について、すべての人が積極
的に考え、支え合いに参加してもらえ
ることを期待しています。

本当のバリアフリーに向けて
市内では施設のバリアフリー化も
進みました。以前と比べるとスロープ
やエレベーターのある施設が一般
になりました。「バリアフリー」とい
う言葉のとおり、隔たりを取り除くこ
とで、普段の生活はとても快適なもの
になります。
私たちの考え方も同じです。障がい
のある人が、障がいを理由に「諦め
る」ことや「否定される」ことはあつ
てはならないことです。隔たりをつく
るのではなく、互いに手を取り合うこ
とで、障がいの有無に関わらず、誰も
が輝いて生きることのできる社会が
実現できるのではないのでしょうか。

コラム

知っていますか？ ヘルプマーク

外国から見ると、日本はバリアフリーや
ユニバーサルデザインが最も進んだ国の1
つと言われています。数ある制度やマーク
の中で、「ヘルプマーク」とは何か知って
いますか。
義足や人工関節を使用している人、妊娠
初期の人など、外見からは援助や配慮を必
要としていることがわからない人たちが
います。「ヘルプマーク」とはそうした人た
ちが、周囲からの援助や配慮を得やすくなる
ように作成されたマークのことです。
電車やバスの中では席を譲ったり、歩行
や階段の昇降時の声かけも安心に繋がります。
また、災害時には、状況把握や迅速な
避難が困難な人もいます。日常生活、非常時
問わず、ヘルプマークを見かけたら、援助や
配慮を心がけましょう。一人ひとりの思い
やりが、たくさんの安心につながります。

※実際の色と異なります。

